

追悼

最大級のパワー&スケールで
天地を駆ける鋼の従者たち

横山光輝が遺した ロボット

構成・文：(株)ブレインナビ はらだ じゅん 原田 淳



©光プロ/数島重工

数々のロボットを世に送り出した偉才・横山光輝

無敵の力をふるう鋼鉄のロボット、陸海空を駆け抜ける巨大ロボットの迫力、ロボットを操る心正しき少年の活躍。横山光輝氏が生み出したロボット漫画は、そのどれもが独創的なアイデアと斬新なメカニック描写に満ちている。それは横山漫画の特徴である丁寧でわかりやすいストーリーとあいまって、いまだに多くの読者を魅了し続ける。

出世作にして代表作の『鉄人28号』は、日本の「巨大ロボットもの」の原点として名高い。ロボットが持つ流線型のフォルムや、「操縦者によって機械は善にも悪にも変わる」という現実的な視点など、後のロボット作品にあたえた影響力は計り知れない。「鉄人」と「正太郎」=「道具としてのロボット」と「少年」の関係性をめぐる物語などは、巨大ロボット作品ならば、必ずといっていいほど描かれる普遍的テーマでもある。

また、エンターテインメント性に優れた横山氏のロボット漫画は、映像化されることも多かった。放映時に爆発的な人気を呼んだ白黒アニメ『鉄人28号』や、特撮テレビドラマとOVAが制作された『ジャイアントロボ』などの魅力的な作品群。画面の中で動く横山ロボットには、「走る、飛ぶ、戦う」といった巨大ロボットが持つダイ

ナミズムが凝縮されており、たくさんの人々から支持を受けた。

横山光輝氏が作り上げたロボットたちの姿は、原作漫画の中だけではなく、現在もアニメ・ゲーム・オモチャなどになり、至るところで見ることができる。時代を越え、すべての世代にリンクし続ける横山ロボットの偉大さを改めて感じずにはいられない。

横山光輝 バイオグラフィ

1934年、神戸生まれ。55年に、貸本向け単行本『音無しの剣』で漫画家デビュー。『鉄人28号』『ジャイアントロボ』(初期は小沢さとる氏との共作)といったロボット漫画だけではなく、忍者漫画(『伊賀の影丸』『仮面の忍者 赤影』)、SF漫画(『パビル2世』『マーズ』)、歴史漫画(『水滸伝』『三国志』)、少女漫画(『魔法使いサリー』)などの多様なジャンルで活躍し、数多くの名作を発表し続けた。2004年4月15日、自宅で起きた火災により永眠。享年69歳だった。



©光プロ

横山光輝 巨大ロボットの系譜

巨大ロボットの元祖 『鉄人28号』の誕生!

1956年、雑誌「少年」で『鉄人28号』の漫画連載が開始された。それ以降、59年にラジオドラマ化されたのを皮切りに、60年には実写テレビドラマ(全13話)の放映、63年に白黒テレビアニメ(全84話)がスタートと、鉄人の勇姿は、さまざまなたちで描かれた。

そしてさらに、80年のテレビアニメ『太陽の使者・鉄人28号』(全51話)放映開始、92年テレビアニメ『超電動ロボ・鉄人28号FX』(全47話)放映と、時代を超えて繰り返されるのである。

『鉄人28号』を生み出し、巨大ロボットの礎を築いた横山光輝。「鉄人」から続く横山ロボットの変遷を追う!



©光プロ

『鉄人28号』 1956年

鉄人28号

第二次大戦時に日本軍が極秘裏に開発したロボット兵器。平和を愛する少年探偵「金田正太郎」が持つリモコンで遠隔操作され、驚異的な馬力と強靱なボディで悪漢たちと戦う。背中のロケットバックを使っての空中飛行に加え、水中での活動も可能な万能ロボットだが、リモコンの操縦者によっては、その力を悪用されてしまう危険性も持つ。なお、「鉄人」1~27号までは試作・失敗作であり、28号のみが日本の敗戦後、研究者の金田博士(金田少年の父親)によって完成された。